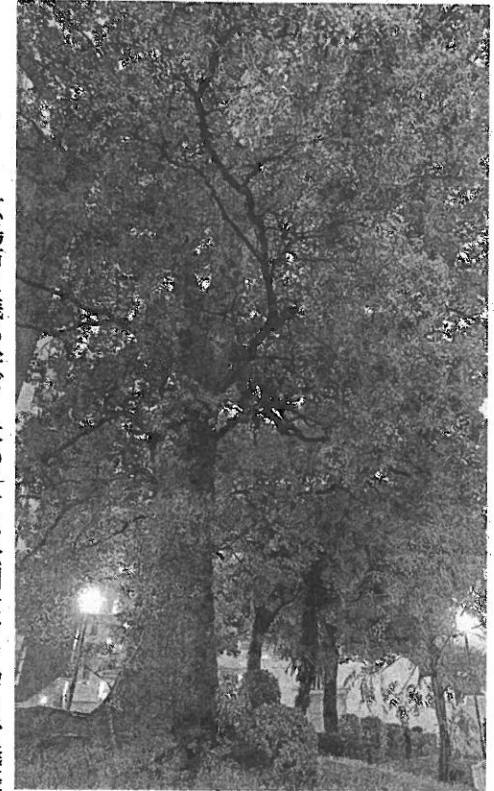


被爆樹木 爆心地に傾く

爆心地に向かって傾いた被爆樹木のクスノキ(広島市中区で)＝近藤誠撮影



細胞傷つき、成長鈍る
筑波大教授調査

広島市に残る幹が一本の被爆樹木の8割が、爆心地に向かって傾いていることが筑波大の鈴木雅和教授(環境デザイン学)らの調査でわかった。原爆による熱線や放射線で、幹の爆心地側の細胞が傷つき、成長が鈍ったためとみられるという。

同市中区の広島平和記念資料館で23日、国連訓練調査研究所(UNITAR)ユニタール)広島事務所などが主催した被爆樹木に関する公開セッションで発表された。爆心地から約2キロ以内にある被爆樹木約170本のうち、幹が一本で、被爆後に移植されたものなどを除くクスノキやクロガネモチなど29本について、鈴木教授や同大学院人間総合科学研究所2年大脇なぎささん(24)らが調べたところ、79%に当たる23本が爆心地の方向に最大で10数度傾いていた。爆心地側は、幹の樹皮が黒く焼け焦げ、枝も

少なく、根の盛り上がりや伸びも悪かった。鈴木教授は「爆心地を指し示し、祈るようにも見える。被爆を後世に伝える『生き証人』として大切にしてほしい」と話している。

24 October 2013, Yomiuri Shinbun:
A-Bomb Survivor Tree Inclined toward Ground-Zero:
Professor from Tsukuba University presented at UNITAR Public Session
Over Green Legacy Hiroshima: The tree trunk cells facing to Ground-Zero
are damaged and grow slower than the other side.